

2023年4月4日

報道関係社各位

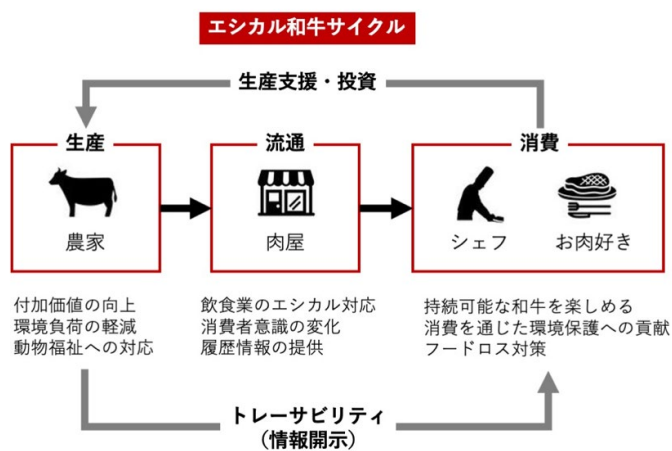
慶應義塾大学

エシカル消費に対応した「環境に優しいあか牛」の生産と産学官金の生産者支援をスタートさせます

～牛由来メタンガス発生抑制が見込まれる飼料による肥育と金融機関と連携したソーシャルインパクトを目指す投資型クラウドファンディングの開始について～

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科（横浜市港北区、研究科委員長：稲蔭正彦 以下、KMD）と熊本県畜産農業協同組合連合会（代表理事会長：荒牧弘幸 以下、熊本県畜連）、株式会社グローバル・クラウドファンディング（代表取締役：都えみ 以下、GCF）は本年1月16日に熊本県南阿蘇村で発足した「南阿蘇村 草原再生・あか牛復興プロジェクト」の一環として、熊本県下の生産農家と協力し、牛由来メタンガス発生抑制が見込まれる「ルミナップ」を給与した環境に優しいあか牛の生産を開始しました。同時に新たな販路の創出に向けて、エシカルな取り組みにチャレンジする生産農家の直接支援とソーシャルインパクトを目指す投資型クラウドファンディングも開始いたします。これにより企業や消費者が生産の段階から産地を応援し、あか牛を購入する事が可能になります。

「生産」「流通」「消費」で支援し、持続可能なエシカル和牛サイクルモデルの構築へ



2022年12月より、毎月3頭のあか牛の肥育を開始（牛由来のメタンガス排出抑制効果が見込まれるカシューナッツ殻液を含む飼料を給与 *1）
(*1 出典：北海道大学・出光興産の共同研究 2010)



GLOBAL CROWD FUNDING

エシカルくまもとあか牛ファンド

<https://www.glocal-cf.com/fund/detail/6017>

■ 背景

日本の固有種とされる4種和牛うちの1つである「あか牛(褐毛和種)」は、日本国内の消費牛肉の内訳でもわずか0.36%、飼養頭数は2万3000頭(黒毛和牛は175万8000頭)と少ない希少な和牛です。しかし、近年の脂肪交雑(サシ)を重視した和牛枝肉の格付けでは、霜降りの少ない赤身を特徴とする「あか牛」に対する枝肉市場の評価が高くないため、その生産数はこの20年間で半減しています。そこで本プロジェクトは新たな価値観であるエシカルなあか牛の生産を資金面から支援しつつ、購入体制の強化を通じた安定的供給を確立することで、持続可能な畜産業と肉食文化の維持を目指す事を目的としています。

■ 「食の多様化と持続可能なエシカル和牛の生産と消費」に向けて

食の安全、健康、美味しさを重視する消費者のニーズに対応した和牛「くまもとあか牛」ですが、その美味しさだけでなく持続可能な畜産を目指して、エシカルな畜産業への転換に向けたチャレンジを開始します。

- 1. メタンガス排出抑制効果が見込まれる飼料の利用やウェルフェアを加味した次世代の畜産体制の確立**
2022年12月から毎月3頭のあか牛の肥育を開始しています。メタンガス削減につながる飼料の使用や動物福祉（アニマルウェルフェア）対応、ホルモン剤不使用などの牛個体識別番号をベースとした生産に関するトレーサビリティ情報の開示、農家見学会の開催など次世代の畜産についてネットとリアルを合わせた、体験納得型の消費提案を目指します。
- 2. 急速液体冷凍技術などを活用したフードロス削減を含む安定的なエシカル和牛供給の実現**
くまもとあか牛プロジェクトで実証を重ねてきた急速冷凍技術を活かした、部位毎に食べやすいサイズで提供するスタイルを中心に、宿泊施設、飲食店や消費者などへ提供する予定です。また、未活用部位についても、「南阿蘇村 草原再生・あか牛復興プロジェクト」参画団体である東海大学九州キャンパス、くまもと阿蘇県民牧場との連携事業などを通じて加工食品の開発を予定しています。
- 3. 持続可能な農畜産業を実現する産官学金連携によるソーシャルインパクト投資の活用実証**
GCF と連携し、生産者支援を目的とした金融型クラウドファンディングを立ち上げることで、普段の生活の食を通じて、くまもとあか牛のコクと旨みを楽しみながら、熊本・阿蘇の草原や畜産業を支援したいという一般の消費者や飲食店、流通事業者などの方々にご支援いただける環境を構築します。支援者の皆様には、普段の食の一部をあか牛に切り替えて頂く事によって、安定的なリターンと持続可能な肉食文化の確立を目指します。

■ （ご参考）これまでの活動について：くまもとあか牛プロジェクト（2018年～）

2018年より、KMD では熊本県下のあか牛生産農家数が減少している現状をふまえて、都市部での販路開拓支援や歩留まり改善に向けた技術導入支援、および新しい事業モデルの検証支援を実施してきました。2019年11月29日（いい肉の日）に産官学金連携協定を締結し、畜産業と地域活性化に向けた域内外との連携事業と活動を続けています。また、2022年7月12日には南阿蘇村との産官学連携協定を締結し地域活性化事業に取り組んでいます。



（写真）2019年11月29日に熊本県を立会人として、KMD（岸博幸研究室）と熊本県畜連、株式会社肥後銀行は産官学金の連携協定を締結



（写真）2022年7月12日に南阿蘇村、KMD、熊本県畜産農業協同組合連合会との連携協定を締結



（写真）2023年1月16日に相互連携協定に6団体との連携に拡大し、「南阿蘇村 草原再生・あか牛復興プロジェクト」を発足

※ なお、今後も引き続きご支援いただける企業団体を募集し、南阿蘇村住民・企業との持続可能な発展を目指します。

■ 熊本県畜産農業協同組合連合会

代表理事会長 : 荒牧 弘幸

住所 : 熊本県熊本市東区桜木6丁目3番54号

URL : <https://akaushi.jp/>

■ 株式会社グローバル・クラウドファンディング

代表取締役 : 都 えみ

住所 : 熊本県熊本市中央区下通一丁目9番9号

URL : <https://www.glocal-cf.com/>

■ 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

メディアデザイン研究科(KMD)は、イノベーションを自ら生み出し社会に向けて価値を創出する能力を持つ「メディア・イノベータ」の育成をミッションとしています。メディア・イノベータは分野や国境の枠を超えてグローバルに活動し、ポストパンデミックにおける創造社会を先導していきます。

研究科委員長 : 稲蔭 正彦 教授

住所 : 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1

URL : <https://www.kmd.keio.ac.jp/>

□地域みらいプロジェクト

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科岸博幸研究室において「持続可能な地域活性」の実現をミッションとし、専門家視点ではなく地域の実行者目線で最新技術や社会情勢を踏まえた解決案を実情に合わせて企画・実行します。自治体や地場産業、地域住民の方と一緒に活動しながら産官学のオープンイノベーション体制を構築し、農林水産や地場産業の活性化プロジェクトを実行しています。

担当教官 : 岸 博幸 教授

プロジェクトリーダー : 大江 貴志 研究員

事務局 : オークツ株式会社 (大学発ソーシャルベンチャー)

URL : <https://chiki-mirai.localinfo.jp/>

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部等に送信しております。

【本調査内容に関するお問い合わせ先】

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 研究員 岸浪 聖

Email : sei.kishinami@kmd.keio.ac.jp

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室 (澤野)

TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640

Email : m-pr@adst.keio.ac.jp URL : <https://www.keio.ac.jp/>